



～届け 私たちの思い～

巨大スラムの中に 夢を語れる場所がある

「看護師になってたくさんの人を助けたい」「コンピュータの勉強がしたいんだ」「いつか外国に行ってみたいな」。子どもたちがうれしそうに将来の夢を話している。マゴンスクールの卒業パーティーでのひとコマだ。アマニ・ヤ・アフリカの石原輝さんも招かれて出席した。マゴンスクールは、80万人を超える人々が暮らすといわれるナイロビ最大のスラム、キベラ地区にある政府無認可の8年制の小学校。両親がいなかったり、虐待を受けていたり、ストリートチルドレンだった子どもたちが通う。アマニ・ヤ・アフリカは学校建設のための資金援助をして以来、活動を続け、現在は給食費と教員2人分の給与を支援している。

「卒業式での子どもたちを見てみると、スラムの中に夢を語れる場所ができた、そのお手伝いができたんだという思いで、とても幸せな気持ちになります」。そして今、子どもたちの夢のために、石

子どもたちにアマニを贈り届けるためには、学校や生徒に対する資金的な支援のほかには、何が出来るだろうか？石原さんたちは、現地に職業訓練施設を設立することだと考えている。

「何でもいいんだ、ただ仕事が欲しい」。石原さんは、キベラスラムの至る所でそんな声を聞いている。

「子どもたちは、ギリギリのお金を稼ぐ親のもとで暮らしています。そんな家庭で育った子どもたちは進学をあきらめたり、スラムでの生活に耐えられずに路上に出て行くことになりまます。そのような子どもたちを減らすためには、まず親が仕事を獲得、生活を安定させることが一番です」

アマニ・ヤ・アフリカは、これまでフェアトレードを中心に活動してきた。しかし、現地の人たちが作る民芸品は、技術も知識も不十分で立派とはいえないものも多かった。職業訓練施設では技術



キベラスラムの民芸品工場で作る骨角のアクセサリなどのフェアトレード商品を作る人々

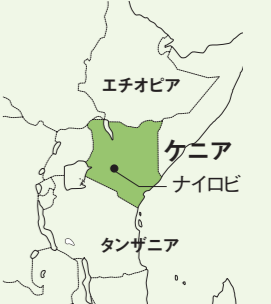


卒業パーティーで歌を歌うマゴンスクールの子どもたち



国内のイベントではフェアトレード商品を販売

ケニアとニッポン、 絆をもっと強く もっと太く



ケニアの首都ナイロビ郊外の町・ティカ市で、より地域に根差した活動をしようとする現地NGOの設立準備が進められている。奔走するのは、NPO法人「アマニ・ヤ・アフリカ」(宮城県仙台市)のプロジェクトマネージャー、石原輝さん。当面の目標は、職業訓練施設の設立だ。



ティカ市で新商品を製作するアマニ・ヤ・アフリカの活動現場を訪れた石原邦子理事長

を教え、販路や仕事の効率性を確保するため、共同組合の設立などを目指す。親を支援することが、子どもたちの「アマニ」につながるのだ。

石原さんたちの活動には、日本に多くのサポーターがいる。アマニ・ファクトリークラブの会員は、一口500円の月会費を納めて職業訓練施設の設立を応援している。仙台市内で行ったキャンペ

ーンでは、飲食店を利用した人が食事代に数十円を上乗せして募金に協力してくれた。ある企業では給与の十円単位を寄付に回した。それらの金額がマゴンスクールの給食費となった。また教員2人分の給与には、フェアトレード活動で製作したキーホルダーやボールペンを日本で販売し、その売り上げが支援に充てられている。

「私たちの活動は、思いや理想が先走りがちで現実が追いつかないことがあります。ケニアでの活動はもちろん大切ですが、日本でできることは何か、そのことをいつも考えるようにしています」

マゴンスクールの建設や学校運営への支援から始まったアマニ・ヤ・アフリカの活動は、今、奨学金支援や職業訓練施設の建設へと広がっている。キベ



ナイロビ最大のキベラスラムには80万人を超える人々が暮らす

アマニ・ヤ・アフリカの活動の様子や団体の詳細はホームページでご覧いただけます。
<http://amani-ya.com/>

ケニアでできること、 日本でできること

原さんたちの新たな挑戦が始まろうとしている。経済的な理由から進学をあきらめることになるかもしれない5人の子どもたちに対し、奨学金を提供するのだ。「奨学金支援はかねてからの私たちの願いでした。しかし、中途半端な支援にはしたくありません。教材費や帰省時のバス代、生活費の一部なども含めて支援しようと考えました」

子どもたちの夢を後押しするための貴重な資金として、JICA基金が活用される計画だ。

アマニ・ヤ・アフリカの「アマニ」はスワヒリ語で「平和」を意味する。スラムのラ地区に限られていた支援も、今はティカ市の障害者の人たちへも向けられるようになった。

2000年からフェアトレードのリーダーとして活動してきた石原さんは、09年10月にケニアに赴任してきた。現地の人々との間に今以上の信頼関係を築くためにNGOを設立するのが目的だ。アマニ・ヤ・アフリカの活動はさらに広がりを見せるだろう。子どもたちは夢に向かって学び、大人たちも魅力ある民芸品を作るために学ぶ。

「職業訓練施設は今年の夏に開校する予定です。5年後、10年後、日本で応援してくれている人たちにたくさんのおいしい報告をしたいと思っています」

ケニアとニッポンを結ぶ絆をもっと強く、太く。新たな活動がアマニ・ヤ・アフリカで始まっている。

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>